

製品名: E2F-6 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab10258**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	31kDa

抗原情報

遺伝子名	E2F6
別名	E2F6; Transcription factor E2F6; E2F-6
遺伝子 ID	1876.0
SwissProt ID	O75461
免疫原	抗血清はヒト E2F6 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 141-190

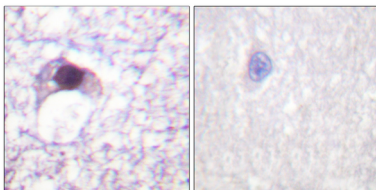
背景

この遺伝子は、細胞周期の制御に重要な役割を果たす転写因子ファミリーのメンバーをコードしています。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、他のファミリーメンバーに見られる転写活性化ドメインと腫瘍抑制タンパク質関連ドメインを欠き、転写阻

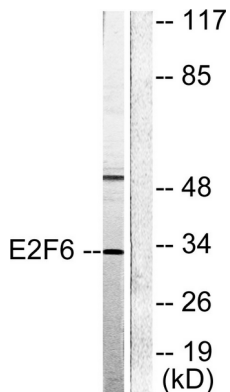
害に機能するモジュラー抑制ドメインを含んでいます。この遺伝子はクロマチン修飾因子と複合体を形成して相互作用します。この遺伝子の擬似遺伝子は 22 番染色体と X 染色体上に存在します。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2013 年 5 月]、機能: E2F 依存性転写阻害因子。E2 認識部位 5'-TTTC[CG]CGC-3'を介して DP タンパク質と協調的に DNA に結合します。5'-TTTCCCGC-3' E2F 認識部位を優先的に認識します。E2F-6 は転写活性化ドメインとポケットタンパク質結合ドメインを欠いています。E2F 依存性遺伝子のサブセットを制御していると思われます。これらの遺伝子の産物は細胞周期の開始に必要ですが、正常な細胞周期の進行には必要ではありません。ヒストン H3-K9 メチルトランスフェラーゼ活性を含むクロマチンリモデリング複合体のリクルートメントを介して発現を抑制します。過剰発現は細胞の S 期からの退出を遅延させます。類似性:E2F/DP ファミリーに属します。サブユニット:DRTF1/E2F 転写因子複合体の構成要素です。DP ファミリーのメンバーとヘテロ二量体を形成します。G0 期の E2F6.com-1 複合体の一部であり、E2F6、MGA、MAX、TFDP1、CBX3、BAT8、EUHMTASE1、RING1、RNF2、MBLR、L3MBTL2、および YAF2 で構成されています。組織特異性:調査したすべての組織で発現しています。胎盤、骨格筋、心臓、卵巣、腎臓、小腸、脾臓に最も多く含まれています。

研究分野

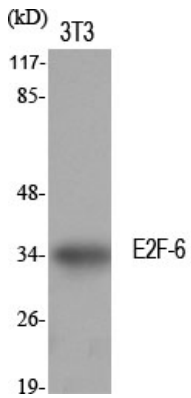
画像データ



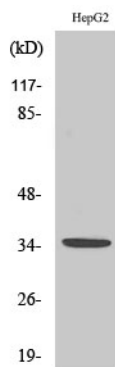
E2F6 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



E2F6 抗体を用いた HepG2 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 500 に希釈した E2F-6 ポリクローナル抗体を使用したさまざまな細胞のウエスタンブロット分析。



1: 500 に希釈した E2F-6 ポリクローナル抗体を使用した HepG2 細胞のウエスタンブロット解析。